

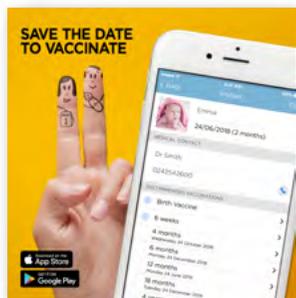
NSW州予防接種スケジュール

NSW州保健省のウェブサイトにある現行のNSW州予防接種スケジュールをご覧になりたい方は下記へ:

www.health.nsw.gov.au/schedule

Save the Date to Vaccinate

赤ちゃんを重度の感染症から守る最良の方法は、予防接種を遅れずに受けることです。アプリ Save The Date To Vaccinate を利用して、お子さんが遅れずに予防接種を受けられるようにしておきましょう。



Save The Date To Vaccinate のウェブサイトからアプリをダウンロードし、ご家族専用の予防接種スケジュールを作成しましょう: www.health.nsw.gov.au/immunisation



ブルーブック (お子さん個人の保健医療記録)

予防接種を受ける際は毎回、必ずお子さんのブルーブックを持っていき、医師か看護師に受けた予防接種を記録してもらいましょう。

大人用予防接種記録フォーム

www.health.nsw.gov.au/recordvaccines から入手可能な大人用ワクチン接種記録フォームを利用して、ご自分の予防接種も記録しておきましょう。

より詳しい情報は

NSW州保健省

www.health.nsw.gov.au/immunisation

オーストラリア予防接種登録簿

<https://www.humanservices.gov.au/individuals/services/medicare/australian-immunisation-register>

オーストラリア連邦政府保健省

<https://beta.health.gov.au/health-topics/immunisation>

NSW州百日咳出産前予防接種プログラム

www.health.nsw.gov.au/protectnewborns

妊娠

妊娠前から 出産までの 感染予防と 予防接種



妊娠前

妊婦の免疫は赤ちゃんにうつり、予防接種を受けられるようになるまでの生後数週間の間、感染症から赤ちゃんを守ります。このため、妊娠する前に必要な予防接種はすべて受けておくことが大切です。感染症によっては、妊娠中にかかる問題を生じることがありますので、妊娠前に予防接種を受けることが最良の対策です。免疫があるかどうかは簡単な血液検査で確認できます。

麻疹・おたふくかぜ・風疹 (MMR)

妊娠中に麻疹やおたふくかぜ、または風疹にかかるると流産したり、早産になったり、重度の先天性異常のある赤ちゃんが生まれたりする場合があります。免疫のない方は予防接種を受けるべきです。また**接種後28日以内は妊娠しない**ようにすることも大切です。

水痘 (水疱瘡)

水疱瘡は妊娠中にかかるると重度の先天性異常の原因となる場合があります。免疫のない方は予防接種を受けるべきです。また、**接種後28日以内は妊娠を避けなければなりません。**



妊娠中

B型肝炎

B型肝炎は分娩時に赤ちゃんにうつることがあるため、妊婦は全員がB型肝炎の検査を受けます。B型肝炎にかかっている方は専門医に診てもらふ必要があることがあり、分娩後赤ちゃんは12時間以内に2回の予防接種を受ける必要があります。この治療を受けない赤ちゃんは慢性のB型肝炎になる可能性があります。これが重症化して肝障害や肝臓がんになる場合もあります。

百日咳

百日咳の予防接種は妊娠のたびに通常、28週目に投与されますが(20~32週目ならいつでも投与可)、早産のリスクが高いと判断された方の場合には、できるだけ早期に(20週目から)予防接種を受けるべきです。抗体が子宮内で赤ちゃんにうつるので、これを受けておけば母子ともに百日咳から守られます。百日咳の予防接種は妊娠中に受けても、妊婦にも胎児にも安全です。

またパートナーや配偶者、赤ちゃんの祖父母など、この他にも直接赤ちゃんの世話をする大人の中に、過去10年間に百日咳ワクチンの接種を受けていない方がいる場合には、赤ちゃんが生まれる少なくとも2週間前までにこの接種を受けてもらうようにすべきでしょう。

インフルエンザ

妊娠中にインフルエンザにかかるると深刻な事態になることがあり、早産やその他の問題が生じるリスクが高くなります。インフルエンザの予防接種は効果があり、妊娠中に受けても安全です。妊娠している女性は必ず受けるようにしましょう。インフルエンザのワクチンは妊婦の方には無料で提供され、子宮内の胎児がインフルエンザから守られるだけでなく、生後数か月までインフルエンザを予防できます。

出産後

母乳を与えている場合でも、出産直後に通常の予防接種を受けなくても安全です。妊娠中に百日咳ワクチンを受けなかった場合には、退院前にこのワクチンの接種を受けておくようにしましょう。

新生児の最初の予防接種はB型肝炎に対するもので、生後すぐに受けることが奨励されています。次に予定されている予防接種は生後6週間で受ける必要があります。

B型肝炎に感染している母親の赤ちゃんはB型肝炎ワクチンのコースを受け終わってから3か月後に血液検査を受け、免疫があるかどうか確認する必要があります。該当者とかかりつけ医にはNSW州保健省からリマインダーレターが送られます。

妊婦の免疫は赤ちゃんにうつりますので、必要な予防接種はすべて受けておくことが大切です。